

令和5年度 「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究」に関わる  
「共同利用型」の個人による研究 研究報告書

令和6年3月31日現在

研究課題名	アゼルバイジャンにおける子どもの権利に関する研究 ——ロシア、ベラルーシ、カザフスタンとの比較——	
申請者	氏名	所属機関・職
	村知 稔三	青山学院大学教育人間科学部・客員教授

## 研究成果の概要

申請者は、スラブ・ユーラシア研究センター図書室と北海道大学附属図書館を、2023年7～8月と2024年2～3月に利用した。その間に閲覧・入手できた資料・文献などをもとに、国連子どもの権利条約(1989年総会で採択/1990年ロシア[←ソ連]、ベラルーシ[←白ロシア]、1992年アゼルバイジャン、1994年カザフスタンがそれぞれ批准)の4か国における国内実施の特徴をまとめた下記②論文と、カザフスタンにおける孤児・無保護児(家庭環境を奪われた子ども)に対する社会的養護(代替的養護)のタイプの重点を施設養護から家庭的養護に移していく過程を跡づけた③論文——これらの草稿を執筆した。両者は、後日の推敲を経て、所属学部・学科の各紀要に発表できた。

また、幼児教育史学会の2022年度大会のシンポジウムでの報告をもとに、1990年代以降の狭義のグローバル化時代における保育・幼児教育の全体的動向を整理し、同学会の会誌に掲載した。

さらに、③論文と同じ社会的養護に関するアゼルバイジャンの動きを整理した研究成果を、2024年3月の世界子ども学研究会第32回研究例会で発表した。その内容は、そこでの質疑・指摘を踏まえて、2024年度内に公表する予定である。

以上の小さな成果は下記研究プロジェクトに繋がることになった。貴重な機会を与えていただいたセンターに感謝したい。

主な発表論文等（雑誌論文、学会発表、図書 等）※謝辞の有無について明記願います。

- ①「グローバル化と保育をめぐる諸問題」『幼児教育史研究』第18号(2023年)55～68頁(有り)。
- ②「旧ソ連4か国における子どもの権利条約の国内実施に関する動向とその特徴(1)」『青山学院大学教育人間科学部紀要』第15号(2024年)37～58頁(有り)。
- ③「カザフスタン子ども学研究序説(4)」『(青山学院大学教育学会)教育研究』第68号(2024年)35～62頁(有り) ※すべて単著/2、3点目の副題は省略

当該研究活動をもとに採択された研究プロジェクト（応募中の研究プロジェクトを含む）  
科学研究費基盤研究(C) 課題番号 24K05892(2024年度～2027年度)

※枠を調整することは構いませんが、ページは追加しないでください。